

第16回 海ごみの調査 開催報告



開催日 2026年10月17日（土）

1. 海ごみの調査

- ・10月11日回収@浜松市の篠原海岸、中田島町地先、および馬込川河口付近（10m×10mの調査エリア）
漂着ごみ：4.95kg（ごみ袋2袋）
- ・漂着ごみの分別作業と「ごみ調査・データカード」の調査対象45品目の個数を数えた。（破片は、直径2.5cm以上のものが対象）

回収量 合計 799個

- 1位：発泡スチロール（480個）
- 2位：硬質プラスチック破片（131個）
- 3位：プラスチックシートや袋の破片（78個）
- 4位：飲料用ボトルキャップ（27個）
- 5位：飲料用プラボトル（ペットボトル）（18個）
- 6位：使い捨てライター（13個）
- 7位：おもちゃ（ボール・フィギュア等）（10個）
- 8位：生活雑貨（歯ブラシ・文具等）（7個）

<前回（同年6月）との比較>

今回の調査では、発泡スチロールが前回の2.5倍、使い捨てライターが2倍に急増していることが分かりました。一方で、飲料用プラボトルやボトルキャップの数は半減していました。



2. 「私たちの生活と身近な海岸状況」のお話

◎講師：Hamaumi-浜松の海を守る会 清水浩利代表
海のごみは海だけで発生するのではなく、「道路沿いのごみ → 川ごみ → 海ごみ」へとつながっているという、私たちの日常生活との深い結びつきが説明されました。

3. 参加者の声

<大人の参加者より>

- ・プラスチックごみの多さに驚きました。中には注射針もあり、危険な現状を認識しました。環境に対して深く考える良い機会になりました。
- ・ほとんどが発泡スチロールや、よく分からない小さなプラスチック破片でした。スプレー缶がなぜ海にあるのか不思議に思いました。
- ・ごみを減らすためには、買い物の仕方（買い物の選択肢）を変えることが大事だと感じました。先のことを考えて買い物をしたいと思います。また、3Rの意味をしっかりと知ることができたので、普段の生活の中でできることから実践したいです。

<子どもの参加者より>

- ・海にごみがたまっていること、ウミガメが困っていることが分かりました。
- ・本物のごみを分ける（分別する）のが楽しかったけれど、大変な作業だった。おもちゃになりそうなものも落ちていました。
- ・海のためにこれから何をすればいいのか、もっと学びたいです。
- ・私たちが普段何気なく使っているプラスチック製品や発泡スチロールが、細かく砕けて海岸を埋め尽くしているリアルな姿を目の当たりにしました。

